

JA 全農 ET センターニュース 平成 16 年 2 月号

今月号も北米 ET 情報をお届けします。何らかの参考になれば幸いです。

ウィスコンシン州のグリーンベイから車で約 1 時間移動したシャワノにある CRI 本部にて組織についての説明を受けた。1993 年に全米の DHI（主として飼料分析や飼料設計を実施している機関）と家畜販売部門と AI 事業体とが合併して農業協同組合として新規に発足しました。職員数は 1000 名を超える大きな組織です。生産者が会員となって運営されており、職員の意識は会員生産者にメリットをどう提供できるかという哲学が浸透しているという印象を受けました。その後 CRI の種雄牛作成に絡む MOET 育種を行っている牧場（本部から車で 15 分ほど離れている）にて MOET のシステムと ET 技術について CRI と契約を結んで ET を行っている Dr. John Prososki に話をうかがいました。

< CRI-MOET システム >

複雑なシステムなので、簡単に紹介します。

米国国内の生産者から年間 300 個の受精卵を 1000-1200 \$ /個で購入、また MOET システムから生まれて成績証明された経産牛を 10-15 頭選抜し、それから採卵した受精卵も年 100 個生産者から（1000 \$ /個）購入し、CRI のファームの未経産牛に移植し、分娩させる。生まれた 90 頭の雄は候補牛として選抜対象とされ、雌は 9 ヶ月齢で 50 頭は生産者に契約販売（その後経産牛になってから 10-15 頭を選抜して上記の受精卵を確保：その選抜牛から生まれた雄産仔も候補対象牛として 15 頭買い上げる）、50 頭は未経産採卵を実施する。そこから得られた受精卵は 300 \$ で米国国内の生産者に契約販売され、そこから生まれた 20 頭の雄は候補牛として 2500 \$ で買い戻すことになっている。最終的に検定にかけるために年 30 頭のホルスタイン種候補雄牛を選抜しています。この MOET 事業の総経費は年間約 2 億円とのことです。

当牧場の発情観察は Heat Watch というスタンディング発情の強度と持続時間が確認できる発情発見システムを利用しており、発信器の脱落も少なく、簡易な取り付けが可能な工夫がなされています。このシステムは大型の酪農家で普及しはじめているが、小から中規模の酪農家ではコスト面からも普及はしていないとのことでした。興味のあるかたは www.heatwatch.com でホームページを検索してください。

< CRI-契約獣医の ET 技術 >

Dr. John Prososki の ET 技術で興味を持ったのが胚の性別別で、農家の庭先で受精卵のバイオブシー（胚の部分切断）をフリーハンド（マイクロマニピレーターのような高価な器具は使わずに）で行っており、フィンランド製の性別別キッドを利用して実施しており、酪農家からのニーズは高いとのこと。また移植技術料金は新鮮であれ、凍結であれ、1 頭 60 \$ と低料金で実施しています。受胎率は新鮮胚で 60%、エチレングリコールのダイレクト胚で 50% 前後、性別別新鮮胚で 50%、性別別凍結胚では 30% をきるとのことでした。